

集落支援員だより

第4号

発行者 東和地域集落支援員
連絡先 66-2490
発行日 平成30年10月26日



区長紹介

木幡・水舟区長

村松さんより

今回は、木幡・水舟区長で農家民宿『さかいヒル』を営まれている村松義正さんに一言いただきました。



▲木幡・水舟区長
村松 義正さん
農家民宿『さかいヒル』

『集落』とは、人家の集まっている所、都市や村落と国語辞典に記してある。その「人家」が「空家」と化している。

我が集落は、三五戸の人家がこの五年間に五戸減少となっていた。減少率15%、そして現在二戸は常住居所となっていない。更に、高齢者の一人暮らしや二人暮らし等の現状から人家・人口の減少はあっても増加は考えられない。

今後の集落の日常機能維持が困難となり集落崩壊にならないためにも、私たちは今何か行動を起こすべき時では？先日政府の内閣改造記者会見で総理は「少子高齢化」解決は困難…とも発して

いた。具体的に解決策を出してほしい。

さて水舟集落は、これまで五年間、市・県の支援事業を受け、大學生の力を活用した集落活性化に取り組んできた。その一例を挙げると、①集落の環境整備で「花木苗」の植栽②地域資源活用で遊休農地へ「ワラビ」試作③住宅の空部屋活用で「農家民宿」開業と歩き始めた。

今年度から「水舟の未来を考える」〜私達の家はこれからどうなる〜と題して、住民ワークショップでこれからどんな暮らしをしたいか、家の子供に受け継がせたいか等、自由に各自意見を述べ、学生がまとめることになっていく。

水舟集落では、消滅集落にならないためにも今の角度を変え、住民の思案が始まった。今後ともご指導、ご声援をお願い申し上げます。

村松さん、貴重なご意見をありがとうございました。ワークショップで学生からどんな意見が出るのか、今後の集落づくりに役立つような意見が出ることを期待しております。



イベントレポート

『地域づくり講演会』開催される

去る九月十五日、東和文化センター研修室にて、JAふくしま未来東和支店主催の「地域づくり講演会」が開催されました。

講師は、岩手県の旧東和町でコミュニティアドバイザーをされている役重眞喜子（やくしげまきこ）氏です。『地域に生きるって大変！でも楽しい！守りたい！』移住25年、岩手での体験から『をテーマに、地域づくりの体験談などを話していただきました。』

「次の代に引き継いでいくためには、地域が若い人に何をしてあげられるかを考えることが大切」と役重氏。これからの集落のあり方について、考えさせられる講演会でした。

ご来場いただいた皆さん、ありがとうございました。



▲講師の役重眞喜子氏



太田・鷹二区 大学生との交流会

九月四日から六日まで、太田・鷹二区集落と大東文化大学生の交流会が行われました。

四日は、学生によるオカリナ・三味線・ホルンの演奏会。とてもすばらしい演奏でした。そして鷹二区からは、佐藤徳江さんのマジックショーと、楽しい交流会となりました。

五日は、ブルーベリージャム作り・陶芸・紫陽花の剪定と三班に分かれ、学生はそれぞれ集落の方々に教えていただきました。作業となりました。

六日には、「鷹二区・東和・福島を考えるワークショップ」と題し、地域の良い点や課題・その活かし方について意見を出し合いました。学生からは地元に住む私たちとはまた違った意見が出され、とても参考になりました。これからの集落づくりに活かしていけたらと思います。

『神妙田(しんみょうでん)の大杉』

旧木幡第二小学校近く、坂之下の交差点を飯野方面へ向かってすぐ左側に、大きな杉の木が二本立っています。幹の外周は二本とも三メートルを超えており、樹齢約三〇〇年と古い歴史があります。

約二二〇年前、神様へお供えするためのお米を作る田があり、この辺りの土地は神妙田と呼ばれていました。その脇の山に立っていたため、「神妙田の大杉」と呼ばれるようになったそうです。

天に向かってまっすぐ立つ様は、まさに神に近しいといえるでしょう。お近くにお越しの際は、ぜひお立ち寄りください。



▲ひと際目立ちそびえ立つ2本の大杉

(木幡・坂之下)

鈴木雅一氏所有



『太田寺坂』

安達太田川堰(せき)



昭和二〇年代後半、寺坂集落前を流れる安達太田川に、寺坂区・西谷区合同の水利会が結成され、水田灌漑用の堰が作られました。当時、阿武隈川流域の

水田灌漑には、川岸にモーター等を設置し水を汲み上げる方法が主流であり、川を堰き止め水田に水を引き込む事は画期的で、大川方面の農家からは大変羨ましがられたそうです。

堰建設には、当時県庁土木課の井川吉行氏(岩代・四本松出身)が担当し、施工は岩代・小浜のミナト組が行いました。また、県議会議員の三津間金八氏(二本松出身)の強力な後押しがあった事も見逃せません。安達太田川は一級河川で水量も大変多く、当時は相当難工事だったようです。

時が過ぎ、堰のスロープ部分に少々痛みは生じているものの、寺坂区・西谷区の約五町歩の耕地に今もなお水を供給し、春夏秋冬豊かな実りを約束しています。

『とんちゃん』

針道九区で農家民宿「とんちゃん」を始められた、大槻善一さん・伊津子さんにお話を伺いました。

農家民宿を始めたきっかけは、伊津子さんが定年退職し、友人でたまたま農家民宿を営んでいる方がおり、ご自身も生きがい見つけのため始めたそうです。

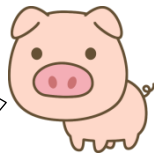
伊津子さんは「人とのコミュニケーションやふれあいを大切にしています」とおっしゃっていました。

都会の方々との交流で、集落の活性化につながることを期待しています。

善一さん・伊津子さん、ありがとうございます。



▲大槻伊津子さん



お米をエサにして育てているため、おいしいと評判です。

『とんちゃん』の名前の由来は、善一さんが養豚(種豚)をしており、その豚肉料理を一品はメインで出すようにしている事と、トントんにいけば良いかなという思いから付けたそうです。

ユニークで親しみやすい名前ですね。

『菊芋(きくいも)』



▲菊芋の花 ▼菊芋



菊芋は天然のインスリンといわれています。抗酸化作用があるそうで、肌のシミを防いだり、風邪やガンの予防に効果があるといわれています。糖質やタンパク質の代謝にも関与し、糖に与える作用があるようです。毛細血管や血管壁が強化され、糖尿病の合併症の元凶ともなる血管障害に有効に機能するそうです。

みなさんも菊芋を育て、長く食してみてはいかがでしょうか。健康な生活が送れるかもしれませんよ。

あとがき

今年、年明けと同時に寒波が押し寄せインフルエンザが大流行。その後、平年より二十日前後も早く梅雨明けし、異常な気象が顔を出し始めたように思えます。ゲリラ豪雨・猛暑・台風、そして北海道地震と、例年より自然災害が多く感じられます。

今年も残すところあと二ヶ月、何があるか分かりません。将来起こるかもしれない災害に備え、心の準備と身の回りの備えが必要ではないでしょうか。